題提起者：Jolanda Siebenga）
7．国内人口移動と人口変動（問題提起者：Lars Ostoby他）
8．転換期の人口学：21世紀における人口専門家の教育・訓練に関するラウンドテーブル（問題提起者：Frans Willekens）　（阿藤　誠記）

1999年イギリス人口学会年次大会

イギリス人口学会（British Society for Population Studies）の1999年度大会は，9月6日から8日にかけて，アイルランド共和国の University of Dublin の University College で開催された．今年度の大会も，イギリスだけでなく，他のヨーロッパ諸国やアメリカから多数の研究者が参加し，相変わらずの盛況ぶりであった．

今年度のメインテーマは「高齢化」であり，Richard Disney（University of Nottingham），Albert Hermaline（University of Michigan），Mike Murphy（London School of Economics），James Vaupel（Max Planck Institute）などをパネラーにした特別セッションが行われた．この特別セッションでは，高齢化の進展とその社会的・経済的影響についての発表がおこなわれ，先進国だけでなく開発途上国をも視野に入れたグローバルな視点から，高齢化の問題が活発に議論された．

分科会では，出生，死亡，婚姻，人口移動，世帯，家族計画，歴史人口学などの各テーマごとに，多数の報告が行われた．また，大会の開催地がダブリンということもあってか，今年度の大会では，例年よりもアイルランドについての報告が目立だった．特に，アイルランドの出生や死亡や人口移動のパターンを他のヨーロッパ諸国と国際比較した発表が多く見受けられた．　（福田亘孝記）

国際社会学機構（ＩＩＳ）第34回世界大会

国際社会学機構（International Institute of Sociology，会長：佐々木正道・兵庫教育大学教授）の第34回世界大会（34th World Congress，組織委員長：Eliezer BEN-RAFAEL テルアビブ大学教授）が1999年7月11日（日）～15日（木）の5日間にわたって「グローバル化時代における複合的近代性（Multiple Modernities in an Era of Globalization）」をテーマとしてイスラエルのテルアビブ大学で開催された．ただし，7月13日（火）の午後のみはエルサレムのヘブライ大学へのエクスカージョンがあり，「和平過程におけるイスラエルとパレスチナの市民社会（Israeli and Palestinian Civil Society in the Peace Process）」と題されたラウンドテーブルが開かれた．テーマを変えて毎朝行われる基調報告と毎晩開かれるシンポジウムやラウンドテーブルに加えて，日中に150以上のセッションが設けられ約600の報告がなされた．500人以上の参加者が世界数十カ国から参加し，佐々木会長をはじめとする日本人も十数名参加した．

人口に関連するセッション，特に人口移動に関連するものは場所柄比較的多かったが，人口関係者が組織したものは国際社会学会人口研究委員会（ISA RC41）が組織した Vital Processes と Contemporary Migration の2セッションとイスラエル中央統計局が組織した Demographic Processes in Israel というセッションのみであった．なお，筆者は最初のセッションで Jean-Louis RALLU と共同で “Comparative Analysis of Fertility in Japan and France” という報告，Japanese Society from a Comparative Perspective と題されたセッションで “Determinants of Married Women’s Work Behavior in the Middle East and Japan” という報告を行った．　（小島　宏記）